

エネルギーマップ SAGA

佐賀県のエネルギー施設



国の海洋再生可能エネルギー実証フィールド

平成26年7月に唐津市加部島沖が国の海洋再生可能エネルギー実証フィールドに選定されました。

日本は、四方を海に囲まれた島国で、洋上風力、波力、潮流、海流、海洋温度差など海域において利用可能な再生可能エネルギー（海洋再生可能エネルギーと呼称）の賦存量が多いと言われています。

これらを利用した発電技術の実用化が進むことで、化石燃料に代わる、環境にやさしいエネルギーとして、その活用を推進することが出来ると考えられています。

- ※再生可能エネルギー…一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギー
- ※海洋再生可能エネルギー実証フィールド…発電装置の性能や耐久性を実証する海域



「あすぴあ」 玄海町次世代エネルギーパーク

太陽光や水素エネルギーといった次世代エネルギーの普及を目的とした、見学・体験型の施設です。経済産業省資源エネルギー庁から玄海町が認定を受け、平成25年7月設置されました。

パーク内では、太陽光発電システム、風力発電システム、燃料電池カートなどが展示されており、楽しみながら次世代のエネルギーについて学習することができます。



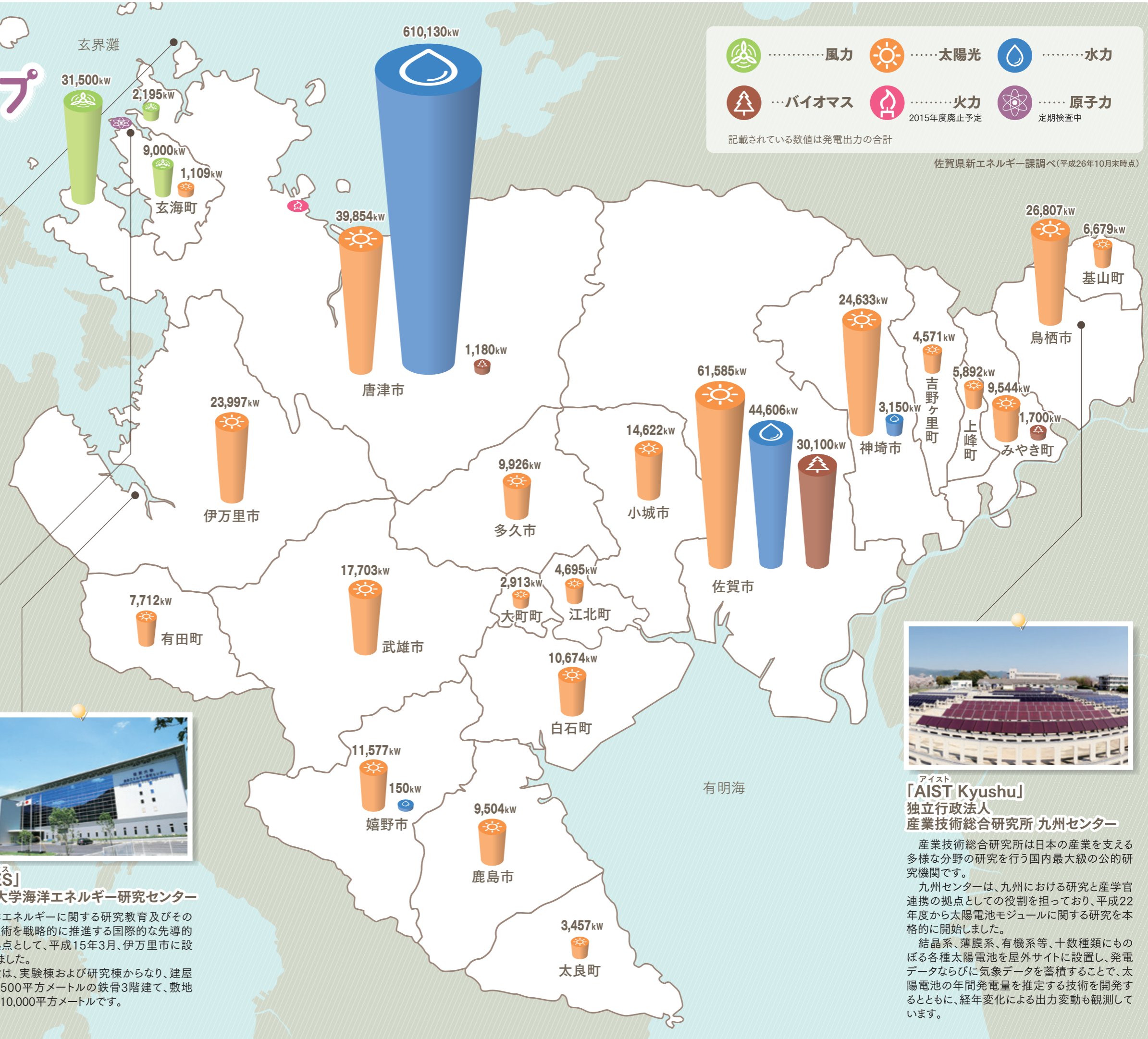
アイオス「IOES」 佐賀大学海洋エネルギー研究センター

海洋エネルギーに関する研究教育及びその科学技術を戦略的に推進する国際的な先導的中核拠点として、平成15年3月、伊万里市に設置されました。

施設は、実験棟および研究棟からなり、建屋面積4,500平方メートルの鉄骨3階建て、敷地面積約10,000平方メートルです。



佐賀県新エネルギー課調べ(平成26年10月末時点)



アイスト「AIST Kyushu」 独立行政法人 産業技術総合研究所九州センター

産業技術総合研究所は日本の産業を支える多様な分野の研究を行う国内最大級の公的研究機関です。

九州センターは、九州における研究と産学官連携の拠点としての役割を担っており、平成22年度から太陽電池モジュールに関する研究を本格的に開始しました。

結晶系、薄膜系、有機系等、十数種類にものぼる各種太陽電池を屋外サイトに設置し、発電データならびに気象データを蓄積することで、太陽電池の年間発電量を推定する技術を開発するとともに、経年変化による出力変動も観測しています。